

## 兵庫県がん診療連携協議会「研修・教育」部会関連

項目	内容
平成24年度の活動報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ セミナーの開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大腸がんセミナー 平成24年10月6日(土) 兵庫県私学会館大ホール 119名参加 「大腸がん治療の最近の動向」 「大腸がんの最新治療 - 標準化、地域連携へ向けて -」</li> <li>・ 検査セミナー 平成24年11月10日(土) 兵庫県私学会館 118名参加 「がんの分子診断と個別化医療～希少疾患としてのがん～」 「がん診療における腫瘍マーカーの位置づけ」 「分子標的薬と遺伝子検査 - 固形腫瘍 -」</li> <li>・ 薬剤師セミナー 平成25年1月19日(土) 「婦人科がんの予防」 「婦人科癌における化学療法」</li> </ul> </li> <li>○ 県立がんセンターにおけるがん看護実務研修の開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成24年6月4日～9月14日</li> <li>・ 各拠点病院への協力要請</li> </ul> </li> <li>○ 共催研究会・市民フォーラムなど (HPに掲載) <a href="http://www.hyogo-ganshinryo.jp/">http://www.hyogo-ganshinryo.jp/</a></li> </ul>
平成25年度の活動計画及び今後の検討課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県立がんセンターにおけるがん看護実務研修の開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成25年6月3日～9月13日</li> <li>・ 各拠点病院への協力要請</li> </ul> </li> <li>○ 共催研究会・市民フォーラムなど(予定)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胃がんセミナー 平成25年10月5日(土) 兵庫県私学会館</li> <li>・ 検査セミナー (未定)</li> <li>・ 薬剤師セミナー 平成26年1月18日(土)</li> <li>・ 放射線セミナー (未定)</li> </ul> </li> </ul>

### 【参考1】

項目	到達目標内容(現状値)															
国のがん対策推進基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ がん医療の均てん化関連(2015年時点の5年生存率)</li> </ul> <table style="margin-left: 40px; border: none;"> <tr> <td>食道 24.7%</td> <td>胃 55.4%</td> <td>大腸 64.0%</td> </tr> <tr> <td>肝臓 24.8%</td> <td>胆のう 20.2%</td> <td>膵臓 7.7%</td> </tr> <tr> <td>肺 22.9%</td> <td>乳房 84.9%</td> <td>子宮 77.2%</td> </tr> <tr> <td>卵巣 51.0%</td> <td>前立腺 75.8%</td> <td>膀胱 75.1%</td> </tr> <tr> <td>リンパ組織 50.5%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	食道 24.7%	胃 55.4%	大腸 64.0%	肝臓 24.8%	胆のう 20.2%	膵臓 7.7%	肺 22.9%	乳房 84.9%	子宮 77.2%	卵巣 51.0%	前立腺 75.8%	膀胱 75.1%	リンパ組織 50.5%		
食道 24.7%	胃 55.4%	大腸 64.0%														
肝臓 24.8%	胆のう 20.2%	膵臓 7.7%														
肺 22.9%	乳房 84.9%	子宮 77.2%														
卵巣 51.0%	前立腺 75.8%	膀胱 75.1%														
リンパ組織 50.5%																
兵庫県がん対策推進計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ がん治療は、外科療法、放射線療法、化学療法から緩和医療までが集学的に提供される必要がある。そのため各療法の専門的な知識及び技能を有する看護師、薬剤師、診療放射線技師等の医療従事者がチームとなって医療を提供することが求められており、こうしたチーム医療を支える医師及び医療従事者の養成が必要である。</li> </ul>															

### 【参考2】

項目	内容
県民からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 再発患者が一番身体心理的社会的に困っているのので、適切に療養支援を行える専門の看護職の充実が必要である。</li> </ul>